

2020年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年9月11日

上場会社名 ベルグアース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 1383 URL <http://www.bergearth.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 一彦
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役経営管理部管掌(氏名) 薬師寺 朝徳 (TEL) 0895-20-8231
 四半期報告書提出予定日 2020年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年10月期第3四半期の連結業績(2019年11月1日～2020年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第3四半期	3,428	6.1	△214	—	△219	—	△146	—
2019年10月期第3四半期	3,231	5.4	△49	—	△58	—	△59	—

(注) 包括利益 2020年10月期第3四半期 △115百万円(—%) 2019年10月期第3四半期 △51百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第3四半期	△115.63	—
2019年10月期第3四半期	△46.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年10月期第3四半期	4,383	1,209	22.3
2019年10月期	3,715	1,337	30.5

(参考) 自己資本 2020年10月期第3四半期 975百万円 2019年10月期 1,134百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年10月期	—	0.00	—	—	—
2020年10月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年10月期の連結業績予想(2019年11月1日～2020年10月31日)

連結業績予想に関する序文

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,490	12.4	90	23.8	95	197.7	75	—	59.1

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -
 期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年10月期3Q	1,269,900株	2019年10月期	1,269,900株
② 期末自己株式数	2020年10月期3Q	247株	2019年10月期	247株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年10月期3Q	1,269,653株	2019年10月期3Q	1,269,700株

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済を含む世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響を受け、各国政府におけるロックダウン、営業規制などにより様々な経済活動の自粛が広がり厳しい状況が続きました。また、農業を含む一次産業においては、外食自粛の動きの広がりや一斉休校による学校給食の中止などにより農畜産物、水産物需要が減少、イベント等の自粛による切り花や鉢花の需要縮小など様々な影響を受けております。一方で、テレワークの定着などで「おうち時間」が増えたことにより家庭菜園を始める人が増加しており、ホームセンターや直売所では野菜苗や家庭菜園の関連商品の売れ行きは好調となっております。

このような状況の中、当社グループは成長戦略として掲げる「全国農場展開」「多角化・多品目化」「グローバル化」の基、人々の食と暮らしに寄与する農業を目指し各事業を推進してまいりました。2020年3月には、国内外の農業を中心としたフードバリューチェーンに関連する企業へ投資を行うコーポレートベンチャーキャピタル「FARM to TABLE FUND投資事業有限責任組合」を設立いたしました。フードバリューチェーンは、生産から製造・加工、輸送・流通、消費に至るまでの流れを一つとしてとらえ、それぞれが連携して生産活動の効率化を高めながら商品に付加価値（バリュー）をつけていくことを目的としています。当社グループでは、単一事業の横串活動を推進していくことにより、新たな技術やサービスの導入を積極的に行い、農業を中心とした循環型の「Farm to table」を実現するための取り組みを行っております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,428,499千円と前年同四半期と比べ196,889千円(6.1%)の増収となりました。損益面につきましては、野菜苗・苗関連事業の売上が順調に推移しましたが、自社農場の生産能力拡大に伴う設備投資コストの増加、生産量増加に伴う雇用拡大、新規事業等への取り組みに伴う先行的な人材投資などの経費が増加しました。また、グループ全体の事業構造の改善・見直し、既存事業とのシナジー効果が期待できる企業のM&A支援等に伴うコンサルティング費用が増加した結果、営業損失214,322千円(前年同四半期は営業損失49,700千円)と前年同四半期に比べて損失が増加いたしました。経常損失219,068千円(前年同四半期は経常損失58,616千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失146,814千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失59,408千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。以下の前年同期比較については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(野菜苗・苗関連事業)

当事業部門におきましては、11～1月の閑散期の受注拡大に向けた営業推進活動により九州、東北、北海道地区の生産者や大規模菜園向けのトマト苗の売上が増加、3～4月の甲信越地区の需要増加によるキュウリ苗の売上が増加いたしました。また、6～7月はベルグ福島の生産設備拡大により、キュウリのワクチン接種苗の供給能力が増加し福島県内向けの受注が拡大したこと、営業推進及び品質評価による北海道、九州向けのトマト苗の受注が拡大したことにより売上が増加いたしました。この結果、売上高は3,318,740千円と前年同四半期と比べ162,406千円(5.1%)の増収となりました。当社グループでは、ベルグ福島の生産設備拡大や現在工事を開始している本社農場の生産設備改築及び新閉鎖型育苗施設の導入により、来期以降の自社での生産能力拡大と品質の安定化に向けて生産供給体制を整えております。その為、損益面につきましては、自社農場での生産能力拡大に向けた人員確保のための雇用単価の引き上げや従業員の雇用環境整備のための有給休暇の取得推進等により労務費が増加した結果、セグメント利益(営業利益)は156,883千円と前年同四半期と比べ106,855千円(△40.5%)の減益となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	1,197,650	105.5
キュウリ苗	923,149	104.2
ナス苗	287,720	93.0
スイカ苗	331,823	108.8
メロン苗	243,987	106.6
ピーマン類苗 (注1)	159,349	109.4
その他 (注2)	175,060	121.2
合 計	3,318,740	105.1

(注1) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

(注2) 玉ねぎ苗、葉菜苗、花苗等を含んでおります。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗 (7.5cm~15cm)	1,757,703	101.9
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ、高接ぎハイレッグ苗、ウィルスガード苗)	876,852	105.0
セル苗 (406穴~72穴)	646,732	115.6
その他	37,451	104.2
合 計	3,318,740	105.1

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗 (当社においては、主に断根接ぎ木苗にて育苗した苗) であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	714,420	107.3
関東	1,123,376	103.5
甲信越	308,335	113.8
東日本地域 小計	2,146,133	106.1
中部・北陸	207,984	117.6
近畿・中国	424,388	95.3
四国	181,876	107.0
九州・沖縄	358,358	105.5
西日本地域 小計	1,172,607	103.6
合 計	3,318,740	105.1

(注) 静岡は「甲信越」に含めて表示しております。

(農業・園芸用タネ資材販売事業)

当事業部門におきましては、海外の種苗会社から優良な品種を選抜し、量販店に対して家庭園芸向けの品種提案、関連会社むさしのタネの品種を国内外での販売に向けて積極的に試験を進める等、開発・販売推進を行っておりますが、家庭園芸向けの種子売上が減少した結果、種子売上高17,685千円(前年同四半期22,538千円)となりました。一方で、AIを活用した病害予測サービスとセットになったハウス栽培向けの環境モニタリング装置、生産者向けに販売を開始した土壌改良剤や当社のオリジナル培土の売上が増加したことにより、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は68,746千円(前年同四半期比14.0%増)となりました。損益面につきましては、資材販売推進のための販売促進費が増加したことにより、セグメント損失(営業損失)2,775千円(前年同四半期はセグメント損失1,787千円)となりました。

今後も、様々な商品提案、関連会社での種子の優良品種の改良・開発、各分野の専門企業との連携、また、当社の技術開発部門における新たな商材を使用した栽培方法の確立や野菜苗から青果物の生産過程で発生する課題改善の為の試験を繰り返し行い、最も適した資材等の発掘を行うなど新規商材の開発に積極的に取り組み事業拡大に努めてまいります。

(海外事業)

当事業部門におきましては、従来、中国山東省にある子会社にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト等の青果物の生産を中心とした施設園芸、生産技術開発のための試験等を行ってまいりました。しかしながら、鉢花(シクラメン)の生産販売につきましては、近年の価格下落傾向の中、現地の生産者との価格差の拡大に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による販売数量の低迷等により、当面の間、事業を縮小することといたしました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、前事業年度より開始した中国国内向けに肥料、袋型液肥給液システムを使用した栽培システムの販売が本格化したことによる肥料販売の拡大等により売上高41,012千円(前年同四半期比173.7%増)、損益面につきましては、海外事業推進に向けての人員増加等により販売費及び一般管理費が増加した結果、セグメント損失(営業損失)49,903千円(前年同四半期はセグメント損失32,343千円)となりました。

海外事業につきましては、2019年12月に業務提携を開始した株式会社ホープのイチゴ苗を、中国国内へ向けて輸出するための準備を開始、また、日本国内向けに優良な韓国苗を輸入する取り組みを試験的に行っており、日本の生産者へ安心、安全な苗をいつでも供給できる体制作りを目指してまいります。新型コロナウイルス感染症の影響により中国国内等での営業、マーケティング活動が制限されておりますが、引き続き、中国での育苗事業を中心として新たな事業基盤となるために、海外での事業拡大に向けて、生産設備や育苗の技術開発並びに農業関連市場の調査等を積極的に行ってまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産の合計は、前連結会計年度末と比べ667,221千円(18.0%)増加の4,383,009千円となりました。これは、仕掛品の増加263,517千円、原材料及び貯蔵品の増加104,394千円、建物及び構築物の増加287,268千円、建設仮勘定の増加151,815千円、投資その他の資産の増加96,921千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末と比べ795,345千円(33.4%)増加の3,173,458千円となりました。これは、支払手形及び買掛金の増加185,930千円、短期借入金の増加377,930千円、長期借入金の増加169,651千円、未払金の増加73,673千円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べ128,123千円(9.6%)減少の1,209,551千円となりました。これは、剰余金の配当及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症が全世界で拡大したことにより、国内外の経済活動は大きな影響を受け、先行き不透明な状況が一層強まっておりますが、現時点では、当社グループの事業に大きな影響はございません。

当第3四半期連結累計期間の業績は概ね予定通りに推移しております。そのため、連結業績予想については、2019年12月13日の開示時点から変更はありません。なお、実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	489,299	359,480
受取手形及び売掛金	855,512	709,004
電子記録債権	173,628	125,555
商品及び製品	10,473	10,516
仕掛品	70,045	333,563
原材料及び貯蔵品	126,598	230,992
その他	58,503	124,643
貸倒引当金	△2,086	△2,099
流動資産合計	1,781,975	1,891,656
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,007,276	1,294,545
機械及び装置（純額）	190,739	175,170
土地	512,894	538,448
建設仮勘定	—	151,815
その他（純額）	30,427	41,379
有形固定資産合計	1,741,338	2,201,358
無形固定資産	40,185	40,783
投資その他の資産	152,289	249,211
固定資産合計	1,933,813	2,491,353
資産合計	3,715,788	4,383,009

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	301,588	487,518
電子記録債務	249,039	196,530
短期借入金	400,000	777,930
1年内返済予定の長期借入金	265,919	295,313
未払金	155,905	229,578
未払法人税等	19,758	18,867
賞与引当金	54,312	31,230
その他	80,328	80,846
流動負債合計	1,526,852	2,117,814
固定負債		
長期借入金	688,865	858,517
資産除去債務	76,671	92,969
その他	85,723	104,156
固定負債合計	851,260	1,055,643
負債合計	2,378,112	3,173,458
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	245,674	245,674
利益剰余金	558,430	398,919
自己株式	△398	△398
株主資本合計	1,135,200	975,689
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△279	40
為替換算調整勘定	△63	△147
その他の包括利益累計額合計	△342	△107
新株予約権	554	554
非支配株主持分	202,263	233,415
純資産合計	1,337,675	1,209,551
負債純資産合計	3,715,788	4,383,009

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年7月31日)
売上高	3,231,609	3,428,499
売上原価	2,378,567	2,635,986
売上総利益	853,042	792,512
販売費及び一般管理費	902,743	1,006,834
営業損失(△)	△49,700	△214,322
営業外収益		
受取利息	16	3
受取配当金	715	143
受取手数料	4,606	10,444
補助金収入	6,229	801
その他	3,726	1,976
営業外収益合計	15,295	13,368
営業外費用		
支払利息	3,489	4,153
持分法による投資損失	19,361	12,988
その他	1,360	973
営業外費用合計	24,211	18,115
経常損失(△)	△58,616	△219,068
特別利益		
補助金収入	-	78,850
その他	-	766
特別利益合計	-	79,616
特別損失		
固定資産除却損	286	832
特別損失合計	286	832
税金等調整前四半期純損失(△)	△58,903	△140,285
法人税、住民税及び事業税	6,830	7,331
法人税等調整額	△14,099	△31,954
法人税等合計	△7,268	△24,622
四半期純損失(△)	△51,634	△115,662
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,773	31,151
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△59,408	△146,814

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)
四半期純損失(△)	△51,634	△115,662
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△969	320
為替換算調整勘定	747	△84
その他の包括利益合計	△222	235
四半期包括利益	△51,856	△115,427
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△59,630	△146,579
非支配株主に係る四半期包括利益	7,773	31,151

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗・苗 関連事業	農業・園芸用タ ネ資材 販売事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,156,334	60,292	14,983	3,231,609	—	3,231,609
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	7,460	7,460	△7,460	—
計	3,156,334	60,292	22,443	3,239,069	△7,460	3,231,609
セグメント利益又は 損失(△)	263,739	△1,787	△32,343	229,608	△279,309	△49,700

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△279,309千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗・苗 関連事業	農業・園芸用タ ネ資材 販売事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,318,740	68,746	41,012	3,428,499	—	3,428,499
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	5,711	5,711	△5,711	—
計	3,318,740	68,746	46,723	3,434,210	△5,711	3,428,499
セグメント利益又は 損失(△)	156,883	△2,775	△49,903	104,204	△318,526	△214,322

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△318,526千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「野菜苗生産販売事業」は、「野菜苗・苗関連事業」に名称変更しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの名称及びセグメント区分に基づきで記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。